

平成26年度(2014)
自己点検・評価報告書

日本赤十字秋田看護大学

目 次

基準1	1
基準2	3
基準3	5
基準4	7
基準5	12
基準6	14
基準7	16
基準8	18
基準9	20
基準10	22

基準1	理念・目的
-----	-------

1. 自己点検・評価

A:適切に実行している B:概ね実行している C:あまり実行していない D:実行していない

点検・評価項目		評価の視点	自己評価	
			看護学部	看護学研究科
(1)	大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。	理念・目的は明確に設定されているか	A	A
		これまでの実績や本学が有する資源(人的資源、物的資源、財務資源)からみて、理念・目的は適切か	B	B
		本学の個性や特徴を生かした理念・目的となっているか	A	A
(2)	大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか。	大学構成員に対し、理念・目的を有効な方法で周知しているか	A	A
		受験生を含む社会一般に対し、理念・目的を有効な方法で公表しているか	A	A
(3)	大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。		A	A

2. 第二次中期計画

特記事項なし	-	-
--------	---	---

3. 昨年度の課題と今年度の目標

自己点検・評価の視点から昨年度の課題と今年度の目標を具体的に記述してください。
<p>【課題】</p> <p>[看護学部]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部の理念・目的に適切に合うためにDP、AP、CPについてワーキンググループを立ち上げ点検・評価及び、作成・検証していく。 ・大学案内パンフレット及び大学ホームページを受験生向けにわかりやすく再構築する。 <p>[看護学研究科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院学生が大学の理念・目的を達成したと評価するための具体的な項目が明文化されていない。 <p>【目標】</p> <p>[看護学部]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会のニーズや学生の進路の現状を踏まえ、理念と目的の計画的な見直しスケジュールを立てる。その際は、地域社会からの本学への要請や学生の声も取り入れていく。 ・AP、CP、DPを明文化し、理念・目的との整合性について教務委員会及び教授会において確認する。 ・2015大学案内パンフレットの作成とホームページの見直し。 <p>[看護学研究科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学の理念を具体的にどのように人材に反映するかを、具体的なDPとして謳い、記載する必要がある。

4. 今年度の状況

現状説明を踏まえ、特色ある取り組みや成果創出などその伸長方策を記述してください。
実績に記述した内容の根拠資料を6. 根拠資料に記載してください。

【実績】

[看護学部]

- ・平成25年度にワーキンググループを立ち上げ、今年度AP、CP、DPが明文化された。
- ・平成27年度入学生用の学生便覧に学士課程教育に関する3つのポリシーを掲げ、周知を図るようにした。ホームページにも掲載し一般社会にも周知するよう図った。

[看護学研究科]

- ・アドミッションポリシー(AP)、カリキュラムポリシー(CP)、ディプロマポリシー(DP)が明文化された。

【課題】

[看護学部]

- ・社会のニーズや学生の進路状況を踏まえ、また、地域社会からの本学への要請や学生の声も取り入れながら、理念と目的の計画的見直しスケジュールを具体的にたてて実施していく。
- ・建学の精神、教育理念及び目的のいずれにも、「人道」が挙げられているが、具体的にこの用語を説明した文章が見当たらないため、大学パンフレット及びホームページにおいて。

[看護学研究科]

- ・AP,CP,DPと理念・目的との整合性について大学院教務委員会、研究科委員会において確認する。

5. 次年度の目標

方策を具体的に記述してください。

【目標】

[看護学部]

- ・平成25年度第1回生が卒業し、卒業生と就職先から、本学の教育や学生支援の適切性についてアンケート調査を実施した。しかし、調査方法等問題が多く回収率が非常に低かった。その反省を踏まえ、卒業生の看護実践力を発揮出来ているか等の教育評価も必要と考える。理念と目的の計画的見直しのスケジュールを具体的に作成し実施計画を立てる。
- ・平成26年度、多数の教職員の方々が退職されることに伴い27年度採用教員・職員の入職時オリエンテーションや赤十字学園主催のFD・SD研修へ参加を図る等、建学の精神・理念・目的の理解・周知徹底を図る。
- ・本学の人道の精神を具体的にわかりやすい文言で説明を加えたパンフレット及びホームページを目指す。

[看護学研究科]

- ・AP,CP,DPと理念・目的との整合性について大学院教務委員会、研究科委員会において確認する。

6. 根拠資料

根拠資料の名称	
1	日本赤十字秋田看護大学 学生便覧 2014
2	日本赤十字秋田看護大学 授業要綱 2014
3	日本赤十字秋田看護大学 ホームページ 看護学部看護学科 建学の精神、教育理念・目的・目標、3つのポリシー
4	新任教職員用マニュアル 20140401版
5	日本赤十字秋田看護大学 2013年度(平成25年度)自己点検・評価報告書
6	平成26年度 日本赤十字秋田看護大学大学院看護学研究科看護学専攻修士課程学生便覧・学修要項
7	日本赤十字秋田看護大学 ホームページ 大学院

基準2	教育研究組織
-----	--------

1. 自己点検・評価

A:適切に実行している B:概ね実行している C:あまり実行していない D:実行していない

点検・評価項目		評価の視点	自己評価	
			看護学部	看護学研究科
(1)	大学の学部・学科・研究科	教育研究組織の編制原理を明確にしているか	B	B
		本学の教育研究組織は理念・目的を実現するために適切な構成になっているか	B	B
		本学の教育研究組織の構成は学術の進展や社会の要請に照らして適切か	B	B
(2)	教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。	B	B	

2. 第二次中期計画

博士後期課程の開設に向けた検討を継続する。	-	A
-----------------------	---	---

3. 昨年度の課題と今年度の目標

自己点検・評価の視点から昨年度の課題と今年度の目標を具体的に記述してください。
<p>【課題】</p> <p>[看護学部] ・教職員数に比べて、委員会、センターの数が多く適材適所の人材配置を考える必要がある。特に教務委員会の下部組織を整理し、学部長職が直接に総括する必要のない組織の構造を検討する必要がある。</p> <p>[看護学研究科] ・大学院教務委員会を設置することおよび各委員会・センターに研究科の委員を配置することが必要と考えられた。がん看護学専門看護師コース(38単位)の開設も課題である。</p> <p>【目標】</p> <p>[看護学部] ・教職員数は限られているため、いかに効率よく組織の活動を行えるかを配慮し、適材適所の人材配置を考える。 ・平成26年度は70歳以上の特任教員が退職予定になっていることもあり、平成27年度教職員採用人事について検討し適切に審査し補充を行う。</p> <p>[看護学研究科] ・大学院教務委員会を設置することと各委員会・センターに研究科の委員の配置とがん看護学専門看護師コース(38単位)を開設する。</p>

4. 今年度の状況

現状説明を踏まえ、特色ある取り組みや成果創出などその伸長方策を記述してください。
実績に記述した内容の根拠資料を6. 根拠資料に記載してください。

<p>【実績】</p> <p>[看護学部]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度、大学組織として第二次中期計画を進めるためにも教育研究組織の改組を含む諸規程の全面的な見直しを行い、平成26年度、スタートを切った。しかし、組織改編後も限られた教員が多くの委員会を担当する状況にあり課題が残った。特に、実習のある時期には会議の日程調整が困難である。 ・今年度は、大学運営における学長のリーダーシップの確立等のガバナンス改革を促進するため、教授会等の組織の規程を見直すことを趣旨とする学校教育法の改定について文部科学省から通知があり、学園本部の改定案に照らし合わせて着手した規程の見直しがなされ、平成27年度4月より再度新規となる。ハラスメントの防止の管理体制としてハラスメント対策委員会が、相談体制として相談員の配置、ハラスメント調査委員会が立ち上げられた。 <p>[看護学研究科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院教務委員会が設置され、主要な委員会・センターに研究科の委員が配置された。また、がん看護学専門看護師コース(38単位)も認定され開設した。 <p>【課題】</p> <p>[看護学部]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内昇格人事について推薦書に関する内規を作成する。 <p>[看護学研究科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博士後期課程の開設については共同大学院を立ち上げる日本赤十字学園の5大学の1つとして開設するべく取り組んでいる。

5. 次年度の目標

方策を具体的に記述してください。

<p>【目標】</p> <p>[看護学部]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度ごとの組織運営の評価を評価センターで集約し、その報告に基づいて教学に関する事項に関しては教授会及び研究会において、運営に関する事項に関しては経営会議で、教育研究組織全体の妥当性を毎年度末に検証していく。 <p>[看護学研究科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同大学院(博士後期課程)の開設申請を行う。

6. 根拠資料

根拠資料の名称	
1	日本赤十字秋田看護大学 諸規程
2	日本赤十字秋田看護大学 教育研究組織図
3	日本赤十字秋田看護大学 2013年度(平成25年度)自己点検・評価報告書
4	平成26年度 日本赤十字秋田看護大学大学院看護学研究科看護学専攻修士課程学生便覧・学修要項
5	

基準3	教員・教員組織
-----	---------

1. 自己点検・評価

A:適切に実行している B:概ね実行している C:あまり実行していない D:実行していない

点検・評価項目		評価の視点	自己評価	
			看護学部	看護学研究科
(1)	大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。	教員に求める能力・資質等を明確にしているか	B	A
		教員組織の編制方針を明確にしているか	B	B
		教員の組織的な連携体制を確保し、教育研究に係る責任の所在を明確にしているか	B	B
(2)	学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。	編制方針に沿った教員組織を整備しているか	A	B
		授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みを整備しているか	B	B
		研究科担当教員の資格を明確化し、適正に配置しているか	—	A
(3)	教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。	教員の募集・採用・昇格等に関する規定および手続きを明確化しているか	B	A
(4)	教員の資質の向上を図るための方策を講じているか	教員の教育研究活動等(社会貢献・管理業務などを含む活動)の評価を行っているか	A	A
		ファカルティ・ディベロップメント(FD)を実施し、教員・教員組織の質の向上を図っているか	A	B

2. 第二次中期計画

特記事項なし	—	—
--------	---	---

3. 昨年度の課題と今年度の目標

自己点検・評価の視点から昨年度の課題と今年度の目標を具体的に記述してください。
<p>【課題】</p> <p>[看護学部]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員組織の編制方針に関して、准教授以下の人数配置は、実習単位数に応じた配置がされているが、科目によって実習単位数に必ずしも教員の実働とが平衡しておらず、教員の負担が大きい結果を生んでいる科目が存在する。 ・現行の教員選考規程第3条において、学長又は学部長が必要と認めた時は教授会に選考を請求するとあるが、第5条では、学長が選考を行うとあり一部不明瞭な箇所がある、委員の選考方法と人選に関する見直しが必要である。 ・自己点検・評価の中に各個人の自らの教育研究活動の評価を加える必要がある。 <p>[看護学研究科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完成年度である昨年度(平成25年度)までは文部科学省の設置審議会で教員審査を受け、適合した教員が研究・教育に携わってきたが、平成26年度以降の大学院に関しては、本学独自の教員採用、昇任の規定を明確にする必要がある。また、教員の資質の向上にはFDを開催する必要がある。 <p>【目標】</p> <p>[看護学部]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員選考規程及び教員選考基準に関する規程、教員選考基準内規、教員選考委員会内規、看護大学助手に関する内規等の見直しを行う。 <p>[看護学研究科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院としての教員採用、昇任の規定を明確にする。大学院独自のFDを開催する。

4. 今年度の状況

現状説明を踏まえ、特色ある取り組みや成果創出などとその伸長方策を記述してください。
実績に記述した内容の根拠資料を6. 根拠資料に記載してください。

【実績】
[大学全体]
 ・平成25年度に諸規程の見直しがなされ、今年度4月改訂された。それに基づき、教授2名・准教授1名・講師1名・助教1名が採用された。
 ・教員の積極的な教育研究活動を期待し、年度初めに個人研究の計画書の提出と年度末にその成果の提出を義務づけ平成26年度からは必要書類の提出をもって予算執行を可能にするなど運用の厳格化を図った。
 ・教職員自らが自己点検・自己評価を行うこととした。

[看護学研究科]
 ・大学院における教員の資格審査に関する内規と審査基準を制定した。FDについては、大学院向けのものとして「研究倫理について」が開催された。

【課題】
[大学全体]
 ・求める教員像、教員組織の編制方針を明文化する。

[看護学研究科]
 ・「研究倫理について」は、今後は研究科独自のFD研修を行う必要がある。

5. 次年度の目標

方策を具体的に記述してください。

【目標】
[大学全体]
 ・教員組織の年齢構成にやや偏りが見られるため、若手教員を積極的に採用していく。
 ・FD・SD活動を通して目指すべき、大学として求める教員像をワークショップ等で明確にしていく。
 ・今後も教職員が自らの資質・能力の開発に取り組めるよう、FD・SD研修会はアンケート等で意見を集約しながら、主体的参加ができる場作りに努める。

[看護学研究科]
 ・研究科独自のFD研修を行う。

6. 根拠資料

根拠資料の名称	
1	日本赤十字秋田看護大学教員選考基準に関する規程
2	日本赤十字秋田看護大学教員選考規程
3	日本赤十字秋田看護大学教員選考委員会内規
4	日本赤十字秋田看護大学教員選考基準内規(採用)(昇任)
5	教職員自己点検評価の活用に関するガイドライン・教員自己評価シート

基準4 教育内容・方法・成果

1. 自己点検・評価

A:適切に実行している B:概ね実行している C:あまり実行していない D:実行していない

点検・評価項目		評価の視点	自己評価	
			看護学部	看護学研究科
1)教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針				
(1)	教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標を明示しているか	A	A
		教育目標と学位授与方針は整合しているか	A	A
		課程修了にあたって修得しておくべき学習成果、その達成のための諸要件(卒業要件・修了要件)を明確にした学位授与方針を設定しているか	A	A
(2)	教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針を明示しているか	A	A
		教育課程の科目区分、必修・選択の別、単位数を明示しているか	A	A
(3)	教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか。	大学構成員に対し、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針を有効な方法で周知しているか	A	A
		受験生を含む社会一般に対し、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針を公表しているか	A	A
(4)	教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。		A	B
2)教育課程・教育内容				
(1)	教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	教育課程の編成・実施方針に基づき、必要な授業科目を適切に開設しているか	A	A
		順次性のある授業科目を体系的に配置しているか	A	A
		教育課程における専門教育・教養教育の位置づけを明確にしているか	A	A
		研究科の教育におけるコースワーク、リサーチワークの位置づけを明らかにしているか	—	A

(2)	教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。	学士課程教育に相応しい教育内容を提供しているか	A	—
		初年次教育・高大連携に配慮した教育内容を提供しているか	A	—
		専門分野の高度化に対応した教育内容を提供しているか	A	A
		理論と実務との架橋を図る教育内容の提供が行われているか。(専門職学位課程対象項目)	—	—
3)教育方法				
(1)	教育方法および学習指導は適切か。	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)を採用しているか	A	A
		単位の実質化を図るため、履修科目登録の上限を設定しているか	B	B
		適切な履修指導や充実した学習指導を行っているか	A	B
		学生の主体的参加を促す授業が工夫されているか	A	B
		研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導が行われているか	—	A
		実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導が行われているか。(専門職学位課程対象項目)	—	—
(2)	シラバスに基づいて授業が展開されているか。	授業の目的、到達目標、授業内容・方法、授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを作成し、その内容を学生に周知しているか	A	B
		シラバスに基づいて授業が展開されているか	A	A
(3)	成績評価と単位認定は適切に行われているか。	成績評価方法、評価基準を明示しているか	A	B
		授業科目の内容や形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定しているか。	A	A
		成績評価方法・基準に則り適切に単位認定を行っているか	A	A
		既修得単位の認定を、大学設置基準等に定められた基準に基づいて、適切な学内基準を設けて実施しているか	A	—
(4)	教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。	授業の内容および方法の改善を図るための組織的な研修・研究を実施し、改善に結びつけているか	B	B

4) 成果				
(1)	教育目標に沿った成果が上がっているか。	学生の学習成果を測定するための評価指標を開発し、教育目標に沿った成果が上がっているかを測定しているか。	B	B
		学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)を実施しているか	B	A
(2)	学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか。	学位授与基準を定め、適切な手続きに基づいて学位を授与しているか	A	A
		学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方を講じているか	A	A

2. 第二次中期計画

<p>・赤十字の特色ある教育の推進と人材育成 ①平成28年度開講となる「海外看護演習」の教育展開のための演習方法の検討を行った。</p> <p>・教育方法の充実 ①PBLテュートリアル教育方法の円滑な運営及びチューターの関わり方の充実について研修会を持った。平成26年度は新事例でスタートしたが概ね問題なく展開できた。②チーム医療を志向する社会の要請に応える人材育成については両学科と検討の段階である。</p> <p>・学生支援の充実 一般入試の入学試験の成績優秀者1名が授業料4年間分免除、在学時の成績優秀者2～4学年各1名計3名を授業料半年間分免除する特待生制度を実施した。</p> <p>・大学院教育において看護職者等の有職者のための科目履修の受講促進、入学前および修了後の教育体制を整備する。</p>	B	B
--	---	---

3. 昨年度の課題と今年度の目標

自己点検・評価の視点から昨年度の課題と今年度の目標を具体的に記述してください。
<p>【課題】</p> <p>[看護学部]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学の中で、恒常的に教育課程の編成・実施方針等について検討する組織と組織の規程の見直しが必要。 ・平成25年度卒業生の保健師国家試験合格率は77.8%であり改善が必要。 ・平成25年度はワクチン接種状況が不良であった。 ・授業改善については、FD・SD委員会で企画し教育内容・方法の改善に努める。 ・授業評価項目の見直し評価のあり方も含め検討が必要。 ・平成27年度学生募集要項に教育目標を明示する。 ・定例の担当者会議を開催し、情報の共有や問題の抽出と解決策の検討を進めてきた。PBLテュートリアル教育委員会として意見の吸い上げ等対応が不十分などところがあり、チュータの意志統一ができていない部分があった。 <p>[看護学研究科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・恒常的に教育組織を検討する組織(教務委員会など)を立ち上げる必要がある。研究科での授業内容・方法に対する評価が必要である。修士論文の内容を学会、学術論文などで公表することを修了生に促し、実績の調査をする。 <p>【目標】</p> <p>[看護学部]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生のワクチン接種については、臨地実習委員会が中心となり実習担当者やアドバイザーへ該当学生に対する指導や確認を確実に行う。また、ガイダンスで学生へワクチン接種と実習可否との説明をしていく。 ・平成27年度学生募集要項に教育目標を明示するよう入学者選抜委員会と連携を図る。 ・全教職員でワーキンググループ提示のDP案を検討修正を加え、具体的DPとして謳い記載する。 ・今年度はホームページや大学案内/パンフレットの掲載記事の正確な情報の公開に努める。 ・PBLテュートリアル教育の円滑な運営およびチュータの関わり方の充実 <p>[看護学研究科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院教務委員会の設置をはかる。大学院生に対して授業に対するアンケートをとる。成績評価の基準を作成する。修了生に学会発表、学術論文投稿の調査をする。

4. 今年度の状況

現状説明を踏まえ、特色ある取り組みや成果創出などとその伸長方を記述してください。実績に記述した内容の根拠資料を6. 根拠資料に記載してください。

【実績】

[看護学部]

- ・冬期の感染症及び積雪凍結による交通事故のリスクを考慮し、今年度は実習時期を早めに開始し12月には前半の実習が終了するよう変更した。また、任意であったワクチン接種を必須義務とした。
- ・平成24年度からの3つのポリシーの一貫性構築への取り組みの成果が私立大学ポータルサイト及び大学ホームページで公表され、教育目標、学位授与方針及び教育課程の編制・実施方針の学内外への周知に関する基盤が整った。
- ・平成26年度学生便覧に、保健師教育課程選抜方法及び保健師免許取得時に養護教諭二種免許を申請する場合に必要な科目について明記した。平成26年度卒業生保健師国家試験合格率は100%であった。
- ・私学版大学ポータルサイトに関連し、ホームページの見直しを依頼し、適宜修正できた。
- ・大学パンフレットについては発行した内容に修正事項が多く、刷りなおしを行った。
- ・オープンキャンパスアンケートでは、周知した情報源として1位ホームページ、2位高校の先生、3位大学パンフレットの順となっている(複数回答)。
- ・昨年度の課題であったチュータの関わり方に関して「PBL研修会」を開催し、担当者同士の情報の共有や意見交換ができた。フィジカルアセスメントPBLでは、定例会議での意思統一およびOSCEに向けて早期に全チュータの役割を明確にして取り組んだことで、スムーズな運営ができた。臨床看護学・赤十字PBLにおいては新しい事例シナリオのスタートとなった。開始前に各事例の発表会(研修会)を行い、チュータ同士でディスカッションして共通理解することができた。その後も定例会議で情報交換を行って、統一した授業の展開ができています。

[看護学研究科]

- ・大学院教務委員会が設置された。大学院修了生に対するアンケートが実施された。成績評価の基準が作成された。学会発表・学術論文投稿に関する調査が本年度に初めて行われた。

【課題】

[看護学部]

- ・DPで示した能力を身につけたかどうかの評価指標の開発が必要。平成27年度以降に教務委員会と下部委員会で、各科目の授業到達目標を達成することがDP達成につながるようなカリキュラムの調整と、卒業までに全員が身につける能力の実質的な評価の策定を目指す。
- ・大学パンフレット及びホームページの内容をよりわかりやすく掲載する必要がある。

[看護学研究科]

- ・修士論文の副指導教員の導入に関しては、論文の質の向上を図り、学会発表・学術論文の投稿を促していく必要がある。

5. 次年度の目標

方策を具体的に記述してください。

【目標】

[看護学部]

- ・本学第二次中期計画の質の高い教育の実践の取り組みとして、平成30年の申請を目指して「教育カリキュラムの検討」プロジェクトを立ち上げ、学部において特にDPを達成し且つ授業以外の学生生活の経験を積むための時間を確保できるカリキュラムとすることを目指す。
- ・高校までの学びを外部研修会等で調査しながら、教養ゼミナールの内容やスムーズに専門基礎分野の学修に入るための入学前教育についての改善案を「教育カリキュラムの検討」プロジェクトでまとめる。
- ・PBL教育を低学年科目で用いる際の知識の学習不足を避ける方法や、積極的に取り組む学生の教育効果と消極的な学生の教育効果に大きな乖離が生まれる点をどのように解消するか等についてPBLチュートリアル教育委員会を中心に平成27年度に原案作成に取りかかり、教務委員会、教授会の議を経て「教育カリキュラムの検討」プロジェクトに活かす。
- ・教育成果を分析し、改善に活かすためのIR体制をどのように整えるか評価センターで平成27年度に現状を整理し、経営会議での組織体制の検証への資料とする。また、教授会及び研究科委員会で検討すると共に、赤十字6大学のデータの有活用可能性等も学長会議などを通して探っていく。
- ・大学パンフレット及びホームページが大学の教育方法や内容の周知に対する貢献度を確保するため、オープンキャンパスアンケートを継続する。
- ・PBLの円滑な運営およびチュータの関わり方の充実
- ・カリキュラム検討プロジェクトとの連携強化
- ・学生の学びの評価の検討

[看護学研究科]

- ・学位論文審査の方法については学位論文審査委員会で、教育内容・教育課程については教務委員会で、全体的なことは研究科委員会で検討していく。

6. 根拠資料

根拠資料の名称	
1	日本赤十字秋田看護大学 学生便覧 2014
2	日本赤十字秋田看護大学 授業要綱 2014
3	日本赤十字秋田看護大学 ホームページ 看護学部看護学科 建学の精神、教育理念・目的・目標、3つの
4	日本赤十字秋田看護大学学位規程
5	授業評価アンケート集計結果を受けての担当授業科目へのフィードバック・改善等調査表
6	日本赤十字秋田看護大学大学院看護学研究科 2013年度(平成25年度)自己点検・評価報告書
7	平成26年度 日本赤十字秋田看護大学大学院看護学研究科看護学専攻修士課程 学生便覧・学修要項
8	大学院生による教育に関する評価

基準5 学生の受け入れ

1. 自己点検・評価

A:適切に実行している B:概ね実行している C:あまり実行していない D:実行していない

点検・評価項目	評価の視点	自己評価	
		看護学部	看護学研究科
(1) 学生の受け入れ方針を明示しているか。	求める学生像を明示しているか	A	A
	当該課程に入学するにあたり、習得しておくべき知識等の内容・水準を明示しているか	B	A
	障がいのある学生の受け入れ方針を明示しているか	B	B
(2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。	学生募集方法、入学者選抜方法は適切であるか	A	A
	入学者選抜において透明性を確保するための措置を適切に講じているか	A	A
(3) 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	収容定員に対する在籍学生数比率は適切であるか	B	B
	定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応を行っているか	B	B
(4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。		A	A

2. 第二次中期計画

入学者選抜、学生確保に関するデータ分析、アンケート調査、実施計画立案	B	A
①入学者選抜方法のあり方を検討する。	A	A
②オープンキャンパス、高大連携や商業ベースの広報活動等の見直しを行い、学生確保のための周知を強化する。	A	A
入学者推薦および就職先に関して、東北ブロック協議会との連携強化を図る。	A	A

3. 昨年度の課題と今年度の目標

自己点検・評価の視点から昨年度の課題と今年度の目標を具体的に記述してください。

【課題】

[看護学部]

- ・大学案内パンフレットの発行時期を新年度スタートにあわせる。
- ・オープンキャンパスでの学生参加数を増やし、受験生の増加につなげる。
- ・タイムリーな学内広報、ホームページの更新、情報発信の充実。
- ・進路ガイダンスの分析による広報活動の見直し。
- ・一般入学試験を1回から、前期・後期の2回実施することで学力及び資質の高い学生の確保を図る。
- ・秋田県の15～19歳人口の暫時、減少傾向にあるため広報活動の強化を図る。
- ・指定校の見直しを図る。
- ・入学者推薦及び就職先に関して、東北ブロック協議会との連携強化を図る。
- ・入学者受け入れ方針(アドミッションポリシー)に基づき、大学への入口段階で入者に求める力を多面的、総合的に評価出来る試験の検討を図る。

[看護学研究科]

- ・平成25年度入学生は13名、平成26年度入学生は10名であり、例年、入学定員と入学者数との比率は平均0.97%である。また、平成26年5月時点では在籍学生数は、1年次10名、2年次24名、合計34名となっており、定員充足率は1.42%である。
- ・収容定員に対する在籍学生数比率が高くなっている原因は、長期履修制度を利用して履修している学生が増えていることにより全体の在籍数の管理を行って行かなければならない。

【目標】

[看護学部]

- ・2014年4月下旬、大学案内パンフレットを発行する。
- ・学報カリヨンの発行を年2回とする。
- ・オープンキャンパスを3回/年とし、学生の参加数を増やす。
- ・商業ベースの進路ガイダンスを検討し、より有効な広報活動とする。
- ・一般入学試験を1回から、前期・後期の2回実施することで学力及び資質の高い学生の確保を図る。
- ・秋田県の15～19歳人口の暫時、減少傾向にあるため広報活動の強化を図る。
- ・指定校の見直しを図る。
- ・入学者推薦及び就職先に関して、東北ブロック協議会との連携強化を図る。
- ・入学者受け入れ方針(アドミッションポリシー)に基づき、大学への入口段階で入者に求める力を多面的、総合的に評価出来る試験の検討を図る。

[看護学研究科]

- ・がんのCNSコースの開講にむけての学生募集を促す。

4. 今年度の状況

現状説明を踏まえ、特色ある取り組みや成果創出などとその伸長方策を記述してください。

実績に記述した内容の根拠資料を6. 根拠資料に記載してください。

【実績】

[看護学部]

- ・学報カリヨンは2014年12月に発行し、本学ホームページへPDFで掲載した。また、進路ガイダンスにおいて来場者へ配付した。
- ・オープンキャンパスは6月、7月、9月の計3回実施した。6月:42名、7月197名、9月84名(付き添い除く)の実績であった。
- ・学生定員の充足状況は、平成21年の開学以来、受験倍率2倍強を維持し、入学定員も開学以来充足している。
- ・平成26年度一般入学試験の志願者について、県外の受験生が増加していることから広報活動の成果と考えられる。
- ・「大学コンソーシアム秋田」が主催する高大連携授業の中では参加者が一番多い。

[看護学研究科]

- ・平成27年4月、がんCNSコースを開設し、入学予定者を2名得た。
- ・学校法人日本赤十字学園が運営する共同大学院へ参画した。

【課題】

[看護学部]

- ・学報カリヨンの編集作業に時間と人を要するため、学報の編集作業を見直すなどの再検討が必要である。
- ・入学決定者に対して、修得しておくべき基本的知識等の内容の水準が明確化されていない。
- ・看護学部では、各学年の7、8割の学生が秋田県の出身者である。秋田県の15～19歳人口の推移をみると、漸次、減少の傾向にあるため、今後も広報活動と入学者数の関係を分析しながら、秋田県内とともに東北各県での入学者数の確保に努める。
- ・一般入学試験は1回の実施としているが、前期、後期の2回実施するなど学力及び資質の高い学生を得る方法について検討していくとともに、指定校の見直しも定期的に行っていく。

[看護学研究科]

- ・看護職者等のための科目等履修生・研究生・聴講生の受講促進を図る。
- ・専攻領域の再検討を行う。

5. 次年度の目標

方策を具体的に記述してください。

【目標】

[看護学部]

- ・大学の理念や目的も踏まえた、広報活動の方針を決めたい。
- ・商業ベースによる広報活動に勤むだけでなく、本学独自のスタイルを打ち出す事で入学者数の確保に努めたい。
- ・秋田県の15～19歳人口の暫時、減少傾向にあるため広報活動の強化を図る。
- ・指定校の見直しを図る。
- ・入学者推薦及び就職先に関して、東北ブロック協議会との連携強化を図る。
- ・入学者受け入れ方針(アドミッションポリシー)に基づき、大学への入口段階で入者に求める力を多面的、総合的に評価出来る試験の検討を図る。
- ・大学案内パンフレット等、正確な情報発信ができるようにチェック体制を確立する。
- ・オープンキャンパスの開催時期を6月から10月へ変更し、より高校生が来場しやすい設定とする。

[看護学研究科]

- ・学士の学位を有しない看護職への広報を続ける。
- ・看護学部の卒業生が臨床経験を経て、あるいは卒業直後に入学するための広報。
- ・本学卒業生、本学の前身である短期大学看護学科の卒業生、赤十字関連施設に勤務し、施設長からの推薦を受けた者に関しては入学金を免除する優遇制度などについても、積極的に明示して学生の確保に努める。

6. 根拠資料

根拠資料の名称	
1	2015大学案内パンフレット
2	学報カリヨン4号、ホームページでのPDF版
3	オープンキャンパス参加者一覧(6月、7月、9月)
4	
5	

基準6	学生支援
-----	------

1. 自己点検・評価

A:適切に実行している B:概ね実行している C:あまり実行していない D:実行していない

点検・評価項目		評価の視点	自己評価	
			看護学部	看護学研究科
(1)	学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう学生支援に関する方針を明確に定めているか。	学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する方針を明確に定めているか	A	A
(2)	学生への修学支援は適切に行われているか。	留年者および休・退学者の状況を把握し、適切に対処しているか	A	A
		リメディカル教育(補習・補充教育)に関する支援体制がとられているか。また実施されているか。	B	B
		障がいのある学生に対する修学支援や生活支援が行える体制がとられているか。	B	B
		奨学金等の経済的支援措置の適切性	A	A
(3)	学生の生活支援は適切に行われているか。	学生の心身の健康保持等、生活支援のために専門相談員(カウンセラー等)を置くなど、学生の相談に応じる体制を整備し、学生に案内されているか。	A	A
		各種ハラスメント防止に対する体制整備、手続きの明確化、学生への案内が適切に行われているか。	C	C
(4)	学生の進路支援は適切に行われているか。	進路ガイダンスを実施するほか、キャリアセンター等の設置など、指導・助言が組織的・体系的に行われているか。	A	B
		学生のキャリア形成支援のための仕組み、組織体制、その運用状況等が整備されているか。	A	B

2. 第二次中期計画

大学院教育において社会人学生のための長期履修制度の見直しと、その活用の周知を図る。奨学金制度、特待生制度の見直し、充実強化を図る。	—	B
---	---	---

3. 昨年度の課題と今年度の目標

自己点検・評価の視点から昨年度の課題と今年度の目標を具体的に記述してください。
<p>【課題】</p> <p>[看護学部]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路支援は進路選択を中心とする支援に重点をおいてきたことからキャリア支援に関する取り組みが不足している。 ・学生支援の活動は学生委員会が中心となって行っているが、学生支援の方針を明文化したものは無い。 ・本学独自のハラスメント防止対策が明文化されていない。 ・卒業時満足度調査において、駐車場の増台及び学生食堂のメニューの改善など、学生からの意見が出された。 <p>[看護学研究科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学独自のハラスメント防止対策が明文化されていない。 <p>【目標】</p> <p>[看護学部]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学学生の学校生活の向上を支援する。 ・福利厚生について：1)学生の課外活動の把握と支援、2)学生施設環境の整備。 ・進路支援について：1)学年別進路ガイダンス、2)合同就職説明会、3)卒業年次生の進路サポート。 ・学生相談：1)アドバイザー制度、2)カウンセラー制度。 ・ハラスメントに関する規定を制定する。 ・駐車場の増台を図る。 ・学生食堂のメニューの改善について、業者に打診する。 <p>[看護学研究科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハラスメントに関する規定を制定する。

4. 今年度の状況

<p>現状説明を踏まえ、特色ある取り組みや成果創出などその伸長方策を記述してください。実績に記述した内容の根拠資料を6. 根拠資料に記載してください。</p> <p>【実績】 [看護学部] ・学生支援に関する内容を整理し、方針案を作成した。 ・学生駐車を7台増やした。 ・学生食堂のメニューについて、学生の意見を業者に伝え、改善を図った。 ・学年別進路ガイダンス、実施進路希望調査(4年生)。就職活動に向けて、介護福祉学科と合同でガイダンスを実施した。また、看護学部3年生を対象に就職活動ガイダンスを実施した。進路の手引き4年生(7月)、3年生(9月)に配付した。 2015年3月:3年生を対象に進路ガイダンス、就職活動ガイダンス(介護福祉学科と合同)で実施した。1年生を対象に進路選択(保健師・助産師、大学院など)に関する説明会を実施した。 ・東北ブロック赤十字病院合同就職説明会を実施した。7月:合同就職説明会(8施設参加)を実施した。2015年3月:東北ブロック赤十字病院(6施設)就職説明会、県内外の病院を対象とする合同就職説明会(37施設)を実施した。 ・1年生:「タイムマネジメント講座(12月)」、「トーキング能力向上講座(1月)」を実施する。 ・3年生:「文章力養成講座(2月)」を実施する。 ・学生相談はアドバイザーが個別に対応している。また、平成26年度第1回アドバイザー会議を10月に実施した。アドバイザーの役割を確認後、学年別目標をグループに分かれ検討した。 ・修学支援として、学外の奨学金受給に関する相談や説明会を行い、随時、奨学金募集の情報を掲示した。 ・本学独自のハラスメントに関する規程を制定した。</p> <p>[看護学研究科] ・本学独自のハラスメントに関する規程を制定した。 ・奨学金について、入学時のガイダンスにおいて説明を行った。</p> <p>【課題】 [看護学部] 1. 福利厚生:学友会の執行部の新旧役員申し送り等に課題があるため今後は適切に行われるよう関わっていく必要がある。また、新役員選出時期についても、学生と協議する必要がある。平成28年度のオリエンテーション合宿については、学生アンケート調査、教職員の意見をもとに、オリ合宿(仮称)の内容や方法、ネーミング等を検討する必要がある。 2. 進路支援:7月の合同就職説明会の参加学生数が少く、これは学生は既に就職希望施設を絞って活動していることが考えられる。今後はこの時期の説明会は不要と考える。キャリア支援は学年毎に内容や時期を年度初めに計画する。</p> <p>[看護学研究科] ・ハラスメント相談員に対する研修を行う。研究科での学生支援体制を明示する。</p>

5. 次年度の目標

<p>方策を具体的に記述してください。</p> <p>【目標】 [看護学部] ・学友会活動の支援と組織の見直しを行う。 ・キャリア支援の充実(キャリアガイドブック)を作成する。</p> <p>[看護学研究科] ・ハラスメント相談員に対する研修、研究科における学生支援体制を明示をする。</p>

6. 根拠資料

根拠資料の名称	
1	合同就職説明会の資料
2	学友会活動【イベント】報告書
3	オリエンテーション合宿に関する調査結果(学生)
4	進路支援に関する調査(進路ガイダンス、キャリア支援)、就職説明会報告書
5	看護学部アドバイザー会議資料
6	ハラスメント規程

基準7	教育研究等環境
-----	---------

1. 自己点検・評価

A:適切に実行している B:概ね実行している C:あまり実行していない D:実行していない

点検・評価項目		評価の視点	自己評価
(1)	教育研究等環境の整備に関する方針を明確に定めているか。	学生の学習および教員による教育研究環境整備に関する方針が理念・目的を踏まえて定められているか。	A
		校地・校舎・施設・設備に係る計画に基づき実施されているか。	A
(2)	十分な校地・校舎および施設・設備を整備しているか。	校地及び施設・設備の運用状況(維持管理体制)等は適切に行われているか。また、キャンパス・アメニティ(快適性や快適環境)の形成がはかられているか。	A
		校地・校舎・施設・設備の維持・管理、安全・衛生の確保ができているか。また、バリアフリーなど安全性・利便性を向上させる取り組みを行っているか。	A
(3)	図書館、学術情報サービスは十分に機能しているか。	図書、学術雑誌、電子情報等の整備状況は研究活動に支障のない質・量であるか。	B
		図書館の規模、司書の資格等の専門能力を有する職員の配置、開館時間・閲覧室・情報検索設備などの利用環境が適正か。	A
		国立情報学研究所のGeNiiや他の図書館とのネットワーク整備などの、学術情報へのアクセスの充実がはかられているか。	A
(4)	教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備が適切に行われているか。	B
		教育研究支援体制の整備として、ティーチング・アシスタント(TA)・リサーチ・アシスタント(RA)・技術スタッフなどが配置されているか。	B
		教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保は十分に行われているか。	B
(5)	研究倫理を遵守するために必要な措置をとっているか。	研究倫理に関する学内規程の整備や研修会の開催など、大学の特質に応じて、適切な措置がとられているか。	A

2. 第二次中期計画

特記事項なし	—
--------	---

3. 昨年度の課題と今年度の目標

自己点検・評価の視点から昨年度の課題と今年度の目標を具体的に記述してください。
<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学術情報サービスの一環として、平成25年度はメディカルオンラインを試行したが、その結果を踏まえて導入推進を図る。 ・図書館の学外利用者を拡大する。 ・研究倫理審査の申請に関する研修会などを開催する。 <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果物の公開を積極的に進める。 ・図書館サービスを一般市民に拡大する。 ・FD・SD研修会において、研究倫理に関する研修会を実施する。

4. 今年度の状況

現状説明を踏まえ、特色ある取り組みや成果創出などその伸長方策を記述してください。
実績に記述した内容の根拠資料を6. 根拠資料に記載してください。

【実績】

- ・メディカルオンラインの導入により、学外文献複写依頼数の減少傾向がみられ、利用者の利便性が高められた。
- ・図書館業務活動の自己点検・評価及び大学としての情報公開を図る目的から、『図書館年報』の創刊を行った。
- ・初めての図書館企画展示を行った。
- ・研究倫理に関する研修会を本学FD・SD委員会の企画・運営のもと、両委員会の委員を兼ねている教授が講師となり実施された。
- ・「人を対象とする医療系研究に関する倫理指針」制定に伴い、研究倫理審査委員会規程の改正を行った(平成27年4月1日施行)。

【課題】

- ・図書館利用サービスの対象を一般市民に拡大するための条件を整備する。
- ・機関リポジトリの構築。
- ・RefWorksのさらなる利用者増を目指す。
- ・アクティブラーニングの学習形態の理解をすすめる、図書館の役割機能を検討する。

5. 次年度の目標

方策を具体的に記述してください。

【目標】

- ・学生の利用数を促進させるために、図書館フェアや展示の他にも方策を考える。
- ・Refworks利用者数の増加を図る。
- ・図書館の新しい役割として、教員側と協力しアクティブラーニングの学習活動を試行する。
- ・機関リポジトリ構築に向けた工程表を作成し、準備に着手する。
- ・一般市民へ利用サービスを拡大するため、利用ルールを作成し条件を整備する。
- ・『図書館年報』第2号の発行。
- ・研究倫理の啓蒙活動の一環として、FDSD研修会において、研究倫理に関する研修会を実施する。
- ・研究倫理審査委員会委員の研修等の受講を推進する。
- ・研究環境に関するアンケートを実施する。

6. 根拠資料

根拠資料の名称	
1	2014年度 図書委員会議事録(第1回～第4回)
2	図書館年報 2014(創刊号)
3	同意撤回書
4	研究中止報告書、研究終了報告書
5	7月FD・SD研修会資料
6	

基準8 社会連携・社会貢献

1. 自己点検・評価

A:適切に実行している B:概ね実行している C:あまり実行していない D:実行していない

点検・評価項目		評価の視点	自己評価
(1)	社会との連携・協力に関する方針を定めているか。	産・学・官等との連携の方針が理念・目的を踏まえて定められ明示されているか。	A
		地域社会・国際社会への協力方針が理念・目的を踏まえ定められ明示されているか。	A
(2)	教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。	教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動が行われているか。	B
		教育研究の推進が学外組織との連携協力により行われているか。	B
		地域交流・国際交流事業への積極的参加により、研究の成果を社会に還元しているか。	B

2. 第二次中期計画

第二次災害救護訓練計画の立案(災害看護教育カリキュラムの検討) 海外演習方法の検討(カリキュラムの検討・演習先の検討) 研究プロジェクト「ボランティア活動」の実施(カリキュラムの検討)	B
--	---

3. 昨年度の課題と今年度の目標

自己点検・評価の視点から昨年度の課題と今年度の目標を具体的に記述してください。
<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域交流センター及び国際交流センター、公開講座委員会において、役割や機能を整理する必要がある。 <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「赤十字地域交流センター規程」における社会連携と社会貢献に関する目的と方針の明確化すること。 ・赤十字地域交流センターが業務として担うべき各事業の所掌範囲を明確化すること。

4. 今年度の状況

現状説明を踏まえ、特色ある取り組みや成果創出などその伸長方策を記述してください。実績に記述した内容の根拠資料を6. 根拠資料に記載してください。
<p>【実績】</p> <p>I. 赤十字啓蒙・国際人道法教育活動事業</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)「赤十字国際人道法フォーラム」(2014年5月8日(木)) 2)「赤十字キッズタウン2014 in アルヴェ」(2014年5月24日(土)) 3)「災害救護訓練」(2014年9月25日(木)) 4)「平成26年度日本赤十字社第1ブロック支部合同災害救護訓練」(2014年9月26日(金)・27日(土)) <p>II. 国際交流・人材交流事業</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)モナッシュ大学語学研修プログラム(科目実施補助業務)(2014年8月2日(土)～8月24日(日)) 2)海外看護演習(2014年10月5日(日)～10月9日(木)) 3)赤十字スタディーツアープログラム(2015年2月28日(土)～3月8日(日)) 4)台北医学大学研修生受入プログラム(先方都合により実施見送り) <p>III. 地域連携・学生ボランティア活動&サービスマン活動事業</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)防災キャンプ(2014年6月21日(土)、27日(日)) 2)こどもサマーキャンプ2014 in 秋田(2014年7月26日(土)、27日(日)) 3)冬期防災キャンプ(2015年2月21日(土)、22日(日)) 4)3.11から未来へ 心に刻む いま、私たちにできることプロジェクト(2015年3月11日(水)) 5)ボランティアの日(2014年5月2日(金)) 6)「学生ボランティアステーション」設立準備 7)上北手地区敬老会祝宴参加(2014年9月7日(日)) 8)秋田県医療療育センタークリスマス会参加(2014年12月19日(金)) 9)雪かき(雪よせ)ボランティア(実施中止) 10)上北手地区体育レクリエーション大会・上北手小学校大運動会参加(実施中止) 11)聞き書きボランティア養成講座(2014年6月21日(土)、8月2日(土))(事業終了) 12)にっせきでかだろ(2014年4月22日(火))(事業終了) <p>IV. 公開講座・コンソーシアムあきた対応等、講演会企画事業</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)公開講座(2015年3月8日(日)) 2)コンソーシアムあきた経費処理業務 <p>V. その他事業</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)赤十字地域交流センター規程の明確化

5. 次年度の目標

方策を具体的に記述してください。

【目標】

- ・今年度実施した既存事業について、さらに精査・改廃を行う。
- ・当センター所掌事業のうち、新規・既存を含め、特に下記の事業・業務について重点的な取組みを行う。
 - I. 赤十字啓蒙・国際人道法教育活動事業:「災害救護訓練」に関するカリキュラム策定支援業務の推進。
 - II. 国際交流・人材交流事業:「モナッシュ大学語学研修プログラム」および「海外看護演習」に関する所掌範囲の明確化と実施支援業務の推進。
 - III. 地域連携・学生ボランティア活動 & サービスラーニングPJ事業:「学生ボランティアステーション」の活動推進をめざした支援業務の充実。加えて、「防災キャンプ」「こどもサマーキャンプ」等における今年度の実績を踏まえ、本学の防災教育事業へと発展させる方策策定への検討。
 - IV. 公開講座・コンソーシアムあきた対応等、講演会企画事業:「公開講座」の開催意義・目的および実施方法についての抜本的な見直し。
- ・「赤十字地域交流センター規程」における社会連携と社会貢献に関する目的と方針を明確化する。
- ・当センターが関係する各事業における所掌範囲と責任範囲を明確化する。
- ・当センター委員の業務遂行環境の改善へ向けて、あらゆる角度から方略策定と折衝を行う。

6. 根拠資料

根拠資料の名称	
1	赤十字地域交流センター平成26年度活動進捗状況
2	平成26年度赤十字地域交流センター事業報告書
3	赤十字地域交流センター平成27年度活動計画(案)
4	赤十字地域交流センター2014年度議事録
5	赤十字地域交流センター各事業の企画書
6	新聞等掲載記事
7	各事業フライヤー、ポスター、案内状等の告知ツール
8	赤十字地域交流センター規程

基準9	管理運営・財務
-----	---------

1. 自己点検・評価

A:適切に実行している B:概ね実行している C:あまり実行していない D:実行していない

点検・評価項目		評価の視点	自己評価
1) 管理運営			
(1)	大学の理念・目的の実現に向けて、管理運営方針を明確に定めているか。	中・長期的な管理運営方針が策定され、大学構成員への周知が行われているか。	B
		管理運営方針において、意志決定プロセスが明確にされているか。	A
		管理運営方針において、教学組織と法人組織の権限と責任が明確になっているか。	A
		管理運営方針において、教授会の権限と責任が明確化されているか。	A
(2)	明文化された規程に基づいて管理運営を行っているか。	関連法規に基づく管理運営に関する学内諸規程の整備を行い、適切に運用されているか。	B
		整備された規程において、学長、学部長・研究科長および理事(学務担当)等の権限と責任が明確にされているか。	A
		規程に基づき、学長選考および学部長・研究科長等の選考が適切に行われているか。	A
(3)	大学業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。	事務組織の構成と人員配置は適切に行われているか。	B
		事務機能の改善・業務内容の多様化への対応策がとられているか。	C
		職員の採用・昇格等に関する諸規程の整備がされているか。また適切に運用されているか。	C
(4)	事務職員の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか。	人事考課(能力や成果等に基づいて行う個々の評価)に基づく適正な業務評価と処遇改善が行われているか。	C
		スタッフ・ディベロップメント(SD)などの取り組みを行い、事務組織の機能を高める努力をしているか。	B
2) 財務			
(1)	教育研究を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。	中・長期の教育計画の十全な遂行と財政確保の両立を図るための仕組みを整備しているか。	C
		科学研究費補助金、受託研究費等の外部資金の受け入れにより、財政基盤の充実を図られているか。	B
		消費収支計算書関係比率および貸借対照表関係比率は、指標や目標に照らして十分に達成されているか。	A
(2)	予算編成および予算執行は適切に行っているか。	予算編成の適切性(執行プロセスの明確性・透明性)は図られているか。また、監査の方法・体制の適切性や客観性は図られているか。	B
		予算執行に伴う効果を分析・検証する仕組みが確立されているか。	C

2. 第二次中期計画

・通常経費において、前年度予算対比マイナスシーリングを目標に経費削減に努める。	B
・秋田県支部、秋田赤十字病院等赤十字関連施設と本学職員の交流人事を促進する。	C
・教職員の人材確保と育成を計画的に遂行する。	B

3. 昨年度の課題と今年度の目標

自己点検・評価の視点から昨年度の課題と今年度の目標を具体的に記述してください。

【課題】
FD・SD委員会としての活動がなかったため、昨年度の課題として整理されていたことは無かった。

【目標】
本学の経営方針、中長期計画に則り、今年度の職員の資質向上に関する方針を決め、その方針に合致した研修計画を立てる。

4. 今年度の状況

現状説明を踏まえ、特色ある取り組みや成果創出などその伸長方策を記述してください。実績に記述した内容の根拠資料を6. 根拠資料に記載してください。

【実績】
学校教育法の改正に伴う学校法人日本赤十字学園教授会規程等の一部改正を実施した。
公的研究費の管理・監査のガイドラインの改正に伴い、諸規定の見直しと体制の整備を行った。
新任職員1名を採用し、総務課へ配置し、体制の強化を図った。
秋田県看護系・短期大学運営費補助金は、前年度比△10,782千円であった。
消費収支計算書関係比率および貸借対照表関係比率は、人件費において、特任教員の退職金支出により高率となった項目もあるが、ほぼ、全国平均より優れた数字を維持していると言える。
科研費の申請は9件、うち採択は1件であった。

教職協働のための能力をもった事務職員育成のための第一歩として、外部研修での意欲向上とFD/SD研修会において外部講師による講演会を行った。

外部研修報告
・「大学職員として学び続けること2～学外研修会の参加報告より～」2014年9月18日 総務課主査 南部 直気
・「私立短期大学教務担当者研修会参加報告」2015年2月19日 学務課主事 佐藤 祐介

外部講師による講演
・SD研修会「赤十字の大学職員として仕事の進め方」2014年8月28日 日本赤十字学園監事 堀野政則
・SD研修会「事務職員の質的向上を目指して」2014年11月11日 秋田銀行 経営管理部 大坂 一郎
・SD研修会「SDの必要性和職員に必要な能力」2014年11月20日 追手門学院大学 副学長 秦 敬治
・「教職協働の実現をめざして～そのための事例とコツ～」2014年11月20日 追手門学院大学 副学長 秦 敬治

【課題】
職員の計画的な人材育成に向けて、現状把握と目標が設定されていない。
第二次中期計画をふまえた財政計画が策定されていない。
予算執行に伴う効果の分析・検証方法が確立されていない。

5. 次年度の目標

方策を具体的に記述してください。

【目標】
秋田県からの補助金が段階的に削減されることもふまえ、第二次中期計画の財政計画を策定する。
予算執行に伴う結果の分析・検証方法を確立する。
第二次中期計画を実行していく上で必要な職員の能力について事務局管理職と経営会議によって目指すべき資質を明文化する。

6. 根拠資料

根拠資料の名称	
1	FD/SD委員会議事録
2	FD/SD研修会参加記録
3	平成26年度計算書類
4	平成26年度財産目録
5	

基準10	内部質保証
------	-------

1. 自己点検・評価

A:適切に実行している B:概ね実行している C:あまり実行していない D:実行していない

点検・評価項目		評価の視点	自己評価
(1)	大学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	自己点検・評価を定期的実施し、その結果を公表しているか。	A
		情報公開の内容・方法は適切におこなわれているか。また、情報公開請求への対応は適切に行われているか。	A
(2)	内部質保証に関するシステムを整備しているか。	内部質保証の方針と手続きは明確にされているか。	A
		内部質保証を掌る組織の整備が適切に行われているか。	A
		自己点検・評価を改革・改善に繋げるシステムが確立されているか。	A
		構成員のコンプライアンス(法令・モラルの遵守)意識の徹底が図られているか。	A
(3)	内部質保証システムを適切に機能させているか。	PDCAの各段階における責任主体・組織、権限、手続きを明らかにし、自己点検・評価活動の充実が図られているか。	B
		教育研究活動のデータ・ベース化を推進しているか。	B
		学外者の意見を反映するなど、内部質保証システムの客観性・妥当性を高めるために工夫をしているか。	A
		文部科学省および認証評価機関等からの指摘事項に対し、適切に対処しているか。	A

2. 第二次中期計画

第三者認証評価の受審 平成27年度に受審するよう諸準備を取り進める。	A
---------------------------------------	---

3. 昨年度の課題と今年度の目標

自己点検・評価の視点から昨年度の課題と今年度の目標を具体的に記述してください。
<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点検・評価の項目が多岐に渡るため、該当する委員会やセンター等との相互連絡調整を円滑にするための工夫 ・評価センターの構成員が大学と短大の教職員からなっているが、評価項目によっては個別になされるため、煩雑である ・PDCAサイクルの流れの中で、評価センターの役割は主に点検・評価(PD)を担うため、調整・改善(CA)をはかる組織 対応の必要性がある ・自己点検・評価の目的、内部質保証の意味、方法論や社会的必要性等に関して全学的な理解が必ずしも十分ではない ・卒業生による本学の「振り返り調査」や就業先の病院・施設等による本学の「学生・大学」に関する評価の実施の在り方 <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『点検・評価報告書』の作成方式の改善 ・学内教職員へのフィードバックを重視する「自己点検・評価システム」の開発 ・平成25年度までの『点検・評価報告書』の完成と外部への情報公開 ・大学の平成27年度第三者評価実施に対する準備組織の確立と工程表の策定、実施

4. 今年度の状況

現状説明を踏まえ、特色ある取り組みや成果創出などとその伸長方策を記述してください。
実績に記述した内容の根拠資料を6. 根拠資料に記載してください。

<p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価センター会議の月例化と議事運営の合理化 ・「第二次中期計画」並びに大学基準協会の設定する基準1～基準10のそれぞれに対応した責任部署・担当委員会・センター等を明確にさせ、割り振った ・自己点検・評価活動の意義や目的、また第三者評価への対応に関する全教職員向けの啓発的な「講演会」の実施 ・教職員すべてに対する「教職員の自己評価シート」の考案と実施（年度初、中間期、年度末のフィードバックを含む） ・大学の運営に関する外部有識者との意見交換会の開催（10月） ・未完了の平成25年度までの『点検・評価報告書』の完成と外部への情報公開（大学ホームページへのアップ）を完了 ・平成27年度大学の第三者評価実施への準備プロジェクトの立ち上げ並びに『点検・評価報告書』の提出完了 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己点検・評価活動の目的とその意義の理解を更に全教職員に浸透させる ・点検・評価システムを大学としてチェックする役割機関の検討 ・PDCAサイクルを各部署・委員会・センター等で円滑に実施する相互調整と情報提供 ・本学に見合う第三者評価の在り方の検討（外部有識者など） ・平成27年度大学の第三者評価実施への準備対応
--

5. 次年度の目標

方策を具体的に記述してください。

<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学の第三者評価の受審とその準備対応 ・教職員すべてに対する「教職員の自己評価」の実施と定着化（4月、10月、3月） ・大学の運営に関する外部有識者との意見交換会の開催 ・『点検・評価報告書』の作成
--

6. 根拠資料

根拠資料の名称	
1	平成25年度『点検・評価報告書』
2	評価センター会議 平成26年度議事録（4月～2月）
3	大学の運営に関する意見交換会議事録（10月）
4	平成26年度教職員の自己評価アンケート集計結果（総務課企画係集計）
5	『点検・評価報告書』（平成27年4月1日）[大学基準協会へ提出]